

ひめゆり 通信

第160号

2020年6月15日号

<https://hozanji-wel.org/>

社会福祉法人宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

主な目次

● 巻頭言	1
● 新型コロナウイルス対策	2
● 叙勲	3
● 高齢者施設より	4
● 児童施設より	7
● 施設長就任挨拶	11
● 新規採用職員	12
● 新任職員からの一言	13
● 人事	14
● 決算報告	15

覚悟

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

それは小さなニュースであった、「中国武漢市で原因不明の肺炎が流行っている」。世界中を震撼させる新型コロナウイルス禍の予兆である。

一月に入って日本で最初の感染者が確認されてからの報道はまるでコロナ一色だ、そして日本の景色は一変した。奈良でも、電車もバスも公園でも中国語、韓国語が飛び交っていて外国に來たみたいだと思えば違和感を囁き合っていたのに。

それまで観光立国だインバウンドだと爆買いをもちやしていた外国人観光客がピタリといなくなった。大型観光バスも街から姿を消してしまった。テレビでは、連日これでもかこれでもかと諸外国の爆発的感染拡大と患者の悲惨な姿が放映され、国内では大都市東京をはじめとする都市部の緊迫した状況や院内感染やクラスター発生の様子が報じられた。我が町でも同じことが起こっているのではないか、そのうちにあのようなものではないかと、不安が掻き立てられた。

「ステイホーム」と東京都知事が何故か英語で呼び掛けると、都民と言わず全国

民がじつと巣ごもり生活に耐えたのである。あらゆる生活場面での自粛が浸透した。見事というほかない。国民性だろうか、コロナに対する恐怖心からだろうか。多くは感染しても軽い症状で経過して、安静にしている間に治っていくと言われる。しかし高齢者や基礎疾患を持つ患者の中には残念ながら命を落とす人も出ている。耳はどうしてもそちらに向く。著名人が、コロナが原因で亡くなったと報じられると、あの人でさえ亡くなるんだと思うと恐怖は倍加した。

一部を除いて多くの事業や施設に休業が要請された。だが社会生活の中で必要不可欠な役割を果たしている事業や施設は休むわけにいかない。病院も消防も警察もだ。

学校や幼稚園が休校になっても保育園は閉じるわけにいかない。老人ホームも乳児院も、子供たちが暮らしている施設も世の中に感染症が流行っているのではないかと閉鎖です、ごめんなさいというわけにはいかない。老人デイサービスセンターもヘルパーさんの訪問介護も我々は

休むことなく事業を継続している。それは私たちの使命だ。

一方、一部には自主的に休業しているセンターや訪問事業所もあるし、中には不安になった職員が辞めてしまったり事業ができなくなったところもあると報じられている。

新しい年度がスタートした四月の初め、法人傘下の全ての施設を巡回して職員の皆さんにお願いしたのは、このような困難な環境が続いた時の最後の砦を守る決意と覚悟だ。私たちに必要としている子供たちやお年寄りに寄り添い続けるという使命と誇りを貫き通す決意だ。肯定している職員の顔が頼もしかった。

この新型コロナウイルスの素性は未だに詳しいことがわかっていない。だから感染予防に対しては過剰とも思える防衛体制を取らざるを得ないのは理解できる。しかし私たちの対人援助という福祉の仕事の現場では、「三密」も言葉だけが一人歩きしているようにも見えて、空疎に響く。

緊急事態宣言が解除されたからと言って感染のリスクがなくなったわけではない。不安は尽きないが、やるっきゃない！

新型コロナウイルス

感染拡大防止対策について

理事長 辻村 泰範

コロナ対策として、国、県、市がそれぞれ通知などを出していますので、それらの指示や要請に基づいて法人の各施設は様々な対策を講じています。利用者の方々やご家族の方々にもご不便をおかけしていることについて、ご理解とご協力を賜っていますことを感謝申し上げます。

WEBによるオンライン会議を活用する取り組みを進めています。皆さんの協力のお陰で、現在まで一人の感染者も出さことなく推移してきました。感謝申し上げます。さてこの間、様々な重要な言葉が何気なく使われています（例えば、濃厚接触、三密など）。言葉が一人歩きしないように気をつける必要があります。

＊緊急事態宣言が出されている間は、入所施設においてはご家族の面会を控えて頂き、ボランティア活動の受け入れや業者の納品など外部からの出入りも制限しました。

＊保育園、こども園では、市からの要請に基づき家庭保育が可能な方については登園自粛をお願いし、ご協力を頂きました。

＊職員については、毎日出勤前の検温、手指消毒、マスクの着用の徹底。濃厚接触の疑いがある場合などは必要に応じて14日間の出勤を停止するなどの対策を講じました。

＊法人全体としての会議については、



濃厚接触者とは、知らぬ間に感染しているかもしれないようなハイリスクの人で、次の場合が当てはまります。（国立感染症センターの定義に照らして考えてみます）

感染が確定した人（患者）が感染の疑いがある症状を呈した二日前から隔離されるまでの期間に、次の状態で患者に接触した人です。

- ① 患者と同居または長時間の接触があった人（車内や航空機内で席が近接していた場合も含みます）
- ② 患者がマスクをしていない状態で、マスクも防護衣も着用せずに介護をした人
- ③ 手袋を着用せずに患者の汚物や体液などの汚染物質を直接処理した人
- ④ 1m以内の距離で必要な予防策（例えばお互いにマスクをしない）をとらずに患者と15分以上の接触があった人

周辺の環境や接触の状況から患者の感染性（感染リスクの高さ）を総合的に判断する、とされています。感染者が明らかになった場合に特に配慮を必要とする人です。

これらのことを踏まえると、三密を避けましょうという時のその三密。

三密とは、具体的には次の状態と考えます。

密閉・狭い閉ざされた空間で換気が不

十分な環境
密接…1m以内の距離や直接接触する状態が15分以上継続するような状態

密集…多数の人（10人以上でしょうか）

が密接な状態で集まっている状態
どんな場合も、どこにでも感染リスクは存在しますが、こうして考えるとあまり大騒ぎして過剰に考えるより、手指消毒やマスクをして感染させたり感染しないように自分の衛生管理を徹底することが肝要なのではないでしょうか。

様々な自粛措置が解除されると、一気にとはまりませんが、平穏な日常生活が少しでも早く取り戻せるように努力したいと思っています。これからもご協力のほどよろしくお願いたします。



叙勲 瑞宝単光章 受章



感謝

極楽坊保育園

主任保育士 松 久 由美子

叙勲と聞くと、立派な功績のある方々が受賞されると誰もが認識しておられると思います。そのような特別な叙勲「瑞宝単光章」を私が頂くことになり、その戸惑いは身内にでさえ言い出せないくらいの心情でした。

そのうちに公式発表前から額縁のカタログや電報が届く様になり、ますます自問自答を繰り返す日々でした。

宝山寺福祉事業団の一員となり、極楽坊保育園で永年にわたり勤めさせて頂いたことは、園長先生をはじめ職場の皆様の支えや子ども達の元気な姿と笑顔がなければ今日に至ってなかったと思います。

恵まれた環境で温かい人々に出会い、私を育てていただいた全ての方々に心から感謝を申し上げます。

コロナ禍に巻き込まれ未だ勲章など手元がないので実感がなく、複雑な気持ちもまだ拭えないのが本音ですが、叙勲という大きなご褒美を頂いた重みと責任を心に刻み、感謝の気持ちを忘れることなく、子ども達の育つ力を大切に温かい保育を心がけ微力ながらも努めていきたいと思っています。

ありがとうございました。

5月20日に奈良市保育所・幼稚園課長から勲章を伝達していただきました



最高のご縁、最高のご褒美

愛染寮

主任保育士 中 尾 智 子

令和2年春、コロナウイルスが世間を騒がせている中、楽しいことがなかった所にいきなり私に、「瑞宝単光章」が頂けるというお知らせが届き、驚きと戸惑いと感謝が入り乱れた気持ちになりました。

私の夢は、「警察官」になることでした。それを家族に伝えると真っ先に祖父に「他人に憎まれる仕事やからダメ。」と反対され、その次になりたかったものは、「保母さん」でした。短大に行くに当たって家族に「施設の保母さんになりたいから行かせてください。」と頼み込み了解をしてもらい通うことになりましたが、いざ就職時期になると施設をうまく探せず保育園などを受験していました。そんな時、「何やってんねん。施設に行きたくて大学行ったんちゃうのか。」と親に叱られ必死になって探して求人を見つけたの

が「愛染寮」でした。ケーブルで宝山寺に行き、和光殿で試験を受け、旧梅寿荘で面接を受け、合格通知が来た時は本当にうれしかったです。そこから三十四年、一度も異動もなく愛染寮で過ごさせていただいているのは最高の「ご縁」だと思っています。

今の私があるのは、たくさんの先輩方が前を歩いて道を作って下さり目標となって下さった事、子どものお世話をする中で自分も成長できた事、そして素晴らしい仲間や後輩のおかげだと思っています。

私自身が、みんなの目標になるためには、まだまだ精進しなければならないと思っています。今回の叙勲に恥じぬよう今一度、胸に刻み初心に戻り日々努力を怠らないように頑張りたいと思っています。笑顔で過ごせるように。

特別養護老人ホーム延寿

こんな時だからこそ

介護主任 大内 知子

新型コロナ感染拡大を受け、手袋やマスク、予防着は、「この先どうなるのか？今ある在庫であとどの位持つのか？」を実際に考えていく上で、本当に手袋が入ってこなくなった時の事を想定し、ビニール袋やビニール製の手袋、今まで使用していたゴム製の手袋を用途に合わせて使い分けしてみることにしました。最初は使いにくかったのですが、今は慣れて便利な事にも気づけました。私達職員は、物品を無駄なく使用することの大切さや 必要に応じた使い方を見直す工夫が出来るようになりました。

また、換気や消毒を職員全体で徹底して行い、送迎車両についても、1日に2回、消毒を行い、感染予防に努めています。

新型コロナ感染拡大防止の為に、面会のお断りをご家族の皆様をお願いしていましたが、自粛期間も長引き、ご家族やご利用者の不安を少しでも和らげればと、5月4日よ

高齢者施設より

り大会議室を使用して、「窓越し」ではありますが、面会をして頂けるようになりました。1日に8件を目安に事前予約を頂き、約10分間、携帯電話を使用して会話や声を聞いて頂いております。ご利用者の姿を久しぶりに見て、写真を何枚も撮られていた方や、思わず涙を流される方、等自粛期間の間、不安と寂しい思いで過ごしておられた事が伝わってきました。

面会に来ることが出来ないご家族の皆様にも、ご利用者のご様子を電話でお伝えしました、延寿の庭園を散歩している写真や、おやつ作りをしている時の写真などを送らせて頂いています。

ご利用者のご家族の方との架け橋になれる様に、今後も引き続き、工夫し、発信して参ります。

デイセンター寿楽

今出来る事

主任生活相談員 中島 淳

新緑の季節がきました。寒さもやわらぎ、心地よい日差しと風の中、いつものデイセンター寿楽ではご利用者の皆さんとお花見やお買い物レクなどをして、積極的に施設を飛び出し、過ごしやすい季節を楽しんでいました。しかし、今年はこれまでとは違いました。新型コロナウィルスの感染拡大に伴って、不要不急の外出を控えなければならなかったからです。ご利用者や職員を感染症から守るべく、感染症予防対策は徹底しておりましたが、それと同時にこれまでしてきた行事が出来なくなっていました。私たちもこうした状況を仕方がないと感じていましたが、そんな中、センター長から「こんな時だから出来なくても仕方がない。でも、出来ない理由を考えるのではなく、こんな時だからこそ出来る事はないのか。失敗してもいいから今はそれを行動に移そう。」と指導を受けました。実際はちょっと怒っていましたが（笑）。センター長の言葉に背中を押された気がして、昨今の暗い雰囲気飲まれていたのは私自身であった事に気づきました。

その後、介護リーダーと一緒に「こんな時だからこそ今出来る事は何だろう」と検討を重ねた結果、今年は室内でバーベキューを行う事にしました。職種の垣根を越えて

全ての職員が協力をし、ご利用者の前でお肉や焼きそばを調理し、出来立ての食事を職員もご利用者と一緒に食べました。普段は小食のご利用者も「美味しかった。いっぱい食べたわ。」と笑顔を見せて下さり、一緒に食事をした職員もお腹いっぱいになりました。みんなが笑顔のとても良い時間でした。改めて、ご利用者と寄り添う時間の大切さと、利用者の笑顔が私たちのやりがいにつながる事を実感できました。

今回の新型コロナウィルスの感染拡大を通して、悪い事や失う事ばかりでなく、得るものもあった私の経験です。今後も訪れるであろう様々な課題に対しても、出来ない理由を探すのではなく、失敗を恐れずに今何が出来るのかを考える事が出来る人間になりたいと強く思いました。



バーベキュー写真

梅寿荘

当たり前は有難い

主任支援員 中江 智美

オリンピックイヤーとなる今年度は、本来ならば開幕日を心待ちにした番組を観ながら、今頃はムードも高まりうきうきした気分になっていただろう。ところが連日流れてくるニュースは、世界規模で拡散した未知のウイルスによる感染者数や不安感を募るものばかりで、如何ともしがたい窮屈な生活を強いられている。この窮屈な思いは施設で生活されている皆さんにとっても例外ではない。外出行事の中止や定期受診ですら可能な限り職員による代行受診とし、ご家族の面会制限やボランティアさんの訪問制限も今のところ継続して行われている。このことは感染後の重篤化や集団感染のリスクを考えると致し方ないことではあるが、あまりにも制限のかかった生活はご利用者のみならず職員にとってもストレスとなる。施設内でできるちょっと

した楽しみを提供できればと灌仏会や屋上でのさつきの鑑花会、屋上喫茶等をグループ間での行き来が無いよう工夫しながら行った。ひと時ではあるが両者共コロナを忘れる事ができた時間となった。

今後は国内で徐々に制限が緩和されていくであろうが、施設での支援はご利用者に対し「3密」あって成り立つものであることを踏まえると、職員は徹底した感染予防（自分が感染しない・持ち込まない・人に移さない）行動と、出勤前検温の実施、いつもと違う症状が少しでもあった場合は上司に相談や報告をし、症状に応じて休業するなど継続していくことになる。終わりの見えない生活の中、明るいニュースが待ち遠しい。

さて、コロナ以外の事を少しお伝えしたい。実は前年度の末日を以て看護主任と主任生活相談員がそれぞれ自己都合により退職した。加えて、長年特養次長・養護施設長であった松岡利和氏が法人内異動となり、代わりに在宅支援を長きにわたり担ってきた森本公子氏が着任した。新年度は人員減と長の入れ替わりが重なり、正直なところ不安を抱えたスタートだった。今は新しい長による新たな風、さわやかな春風だったり疾風迅雷だったりを日々楽しんでいる。梅寿荘にとってなにやら変革の年となる予感を感じながら。

あくなみ苑

看護と介護のコラボレーション

看護主任 田中 豊子

連携の言語的意味は、広詩苑によると「同じ目的を持つ者同士が協力して物事を行うこと」となります。では、看護と介護の同じ目的とは何でしょう。

まず、看護とは「健康の保持・増進、健康の回復、あるいは安らかな死のために自立して日常生活ができるように援助する科学であり、技術である」としています。目的としては、何らかの疾病や障害を持った病者に対して医療処置を含めて看護技術を手段として「健康を回復し、生活の活性化を

図り、日常生活の現状復帰を目指すこと」にあるといえます。

一方、介護は、援助の対象を病者ではなく生活者と捉え、高齢または障害により日常生活を営むことが困難な人に対し、生活の自立を図ることができるよう介護技術を通して「命を守り日常生活の継続性を支えること」です。

双方の共通した目的とは、「命と生活へ関与し、自立した生活を支援すること」となり、看護と介護がこの目的に向かって協力することとなります。その人らしい豊かな生活を支援するためには、看護と介護の連携は不可欠です。そして、看護師にも利用者様を生活者としてとらえる視点が必要です。看護と介護、二つの職種が連携を図っていくために、まずお互いの良い点を認め合うことから始めたいと思います。

「あなたらしさを いつまでも」

あくなみ苑利用者様の、あなたらしさがいつまでも輝くよう、看護と介護が最強のコラボレーションを組み支援していきたいと思います。

者が安心して生活出来るように支援する必要があります。家族と同居しているご利用者であればサービスが中断になっても、支援を望めるかもしれませんが、独居や高齢者ご夫婦はサービスに頼ることになります。

今後緊急事態が起こり、もし介護事業所に休業要請が出て、サービスが利用できなくなった場合、ご利用者に対してどのような支援が必要なのか考えました。そこで、ご利用者全員の「緊急事態における必要な支援」をシミュレーションするために一覧表を作成しました。支援がすぐにいる人は誰か、どんなサービスが必要なのか、緊急時に置ける協力事業所はどこなのか等分かるようにしました。

しかし、支援者自身が感染しないための予防方法や継続した支援をどうするか等課題も見えてきました。

今は状況も少し落ちついてきていますが、今後も感染者を出さず、また自分達も感染に気を付ける事が大切です。緊急事態においても、ご利用者の日常生活が維持出来るように準備をしておきたいと思います。

梅寿荘居宅介護支援センター

この局面に介護支援専門員

が出来ること

介護支援専門員 山角 由紀代

新型コロナウイルス感染予防用に、厚生労働省から事業所に配布された布マスクをご利用者に渡し様子をお伺いしたところ、「必要以外は外出していない」「デイも休んでいる」「手洗いやうがい、マスク着用に気を付けている」「ずっとサービスが使えなくなったら食べる事が心配」等と不安な気持ちを聞くことが出来ました。

私達福祉に携わる者はこのような状況の中でも、ご利用

生駒市梅寿荘 地域包括支援センター

新型コロナウイルス感染拡大 の中での介護予防対策について

主任 坂本 ひとみ

例年であれば鬱陶しい梅雨の季節か清々しい初夏の季節であるはずが、今年はそんな事も忘れるくらいの全世界的な非常事態となり、生駒市においても各種運動教室やサロン等が軒並み休止となりました。高齢者はもちろんの事、

若い方も出かける場がなくなりこのままでは皆が弱ってしまうという状況となりました。だからと言って何もしない訳にはいきません。どんな状況であっても地域の皆様の健康を維持して頂くことが私たち地域包括支援センターの役割です。ということで、教室への参加者をはじめ市民の皆さまにも元気に過ごして頂くためのヒントを生駒市と地域包括支援センターで考え、椅子に座ってできる体操や、テレビ体操の時間の案内など、チラシを配布させて頂きました。長い外出自粛で身も心も弱ってしまうことのないよう自分の健康は自分で守る！意識で是非取り組んで頂きたいと願っています。そしてこの冊子が皆さまのお手元に届く頃にはウイルス問題が落ち着いて晴れて自由に外出ができるようになって信じて、みんな笑顔で元気に再会し、また一緒に楽しく運動しましょう。

はあとぼーと梅寿荘

誇りと責任を持って

主任 金田 智子

私達はあとぼーと梅寿荘のヘルパーは、生駒市内の介護保険や総合事業を利用されているご利用者の家を訪問しています。高齢者二人暮らしの方、身寄りのない一人暮らしの方、認知症が進行した方の生活の困りごとを発見し適切な介護を提供しています。高齢になり永く関わったご利用者の最期を看取することもあります。なかなか、お元気になることは難しいですが中には、ヘルパーとの関わりを継続することで、体調も良くなり自立に向けて頑張っているご利用者

もいます。また、久し振りに訪問すると、リハビリを頑張られて、ベッドでの寝たきりの状態から車イスでの生活になり笑顔で迎えて下さったご利用者にも合うこともあります。毎日訪問して利用者の笑顔や頑張る姿を拝見すると、喜びや勇気を頂き励みになります。

台風や大雪、今回の様な緊急事態宣言が出されても、訪問介護の仕事は、利用者の方々やその家族の生活を継続する上で欠かせないものであることから通常通りの訪問をしています。介護の仕事に携わるヘルパーは仕事に誇りと責任を持ってご利用者に接しています。

毎日の訪問は一人ですが何人かが関わって一つのチームになり、ご利用者の生活を支えるためにミーティングや研修を実施しています。ご利用者が住み慣れた家で「あなたらしさをいつまでも」を実現できるように、はあとぼーと梅寿荘は、日々研鑽を積みピンクのエプロンをユニフォームに皆様のお宅を訪問します。

梅寿荘デイセンター

前向きな変化

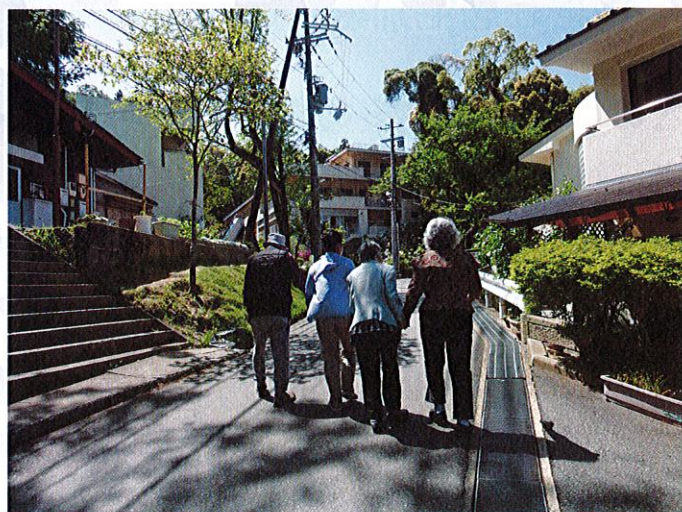
生活相談員 中井 耕大

未だ風が冷たく肌寒い時期、ご利用者に剪定して頂いた生け垣が芽吹き、その葉の緑が眩しくなった頃、木々が風に揺られ爽やかな空気の中、ご利用の皆さんに屋外の散歩を楽しんで頂いています。道中には同敷地内の児童施設の子供たちの笑顔があり、自然と皆さんも笑顔になられています。坂道の多いこの敷地内における過酷な歩行訓練には、一番の癒しの存在であります。

コロナ禍で様々な影響のある中で、梅寿荘デイセンターでは、この有事を变化の準備が出来る好機として捉え、業務内容やタイムスケジュールの見直しと、更なる機能訓練の強化を図っています。屋外の歩行訓練をはじめ、今まで以上に平行棒や運動機器などを活用し、個別に運動して頂ける機会を設けています。これまでより少しでも皆さんの運動量、活動量が増し、自宅での日常生活がより豊かにな

るよう尽力して参ります。

梅寿荘デイセンターは今年、開設30周年を迎えます。自然が溢れ、日常に子供たちとの交流がある、そんな恵まれた環境の中、歴史あるデイセンターで培われてきた経験や知識を活かしつつ、新たな取り組みにも力を入れ、これからも地域に必要とされるデイサービスセンターとして歩み続けたいと思います。



屋外歩行の風景

極楽坊保育園

「ごらくぼうほいくえんチャンネル」 スタート

主任保育士 田中明美

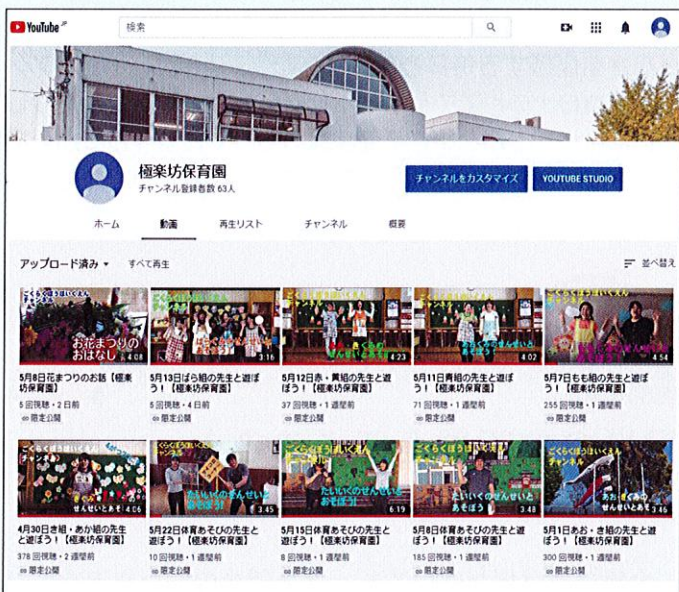
今年度は極楽坊保育園が飛鳥幼稚園と統合し、認定こども園へ移行準備を進めていく最終の一年、つまり極楽坊保育園としての活動が出来る最後の年でもあります。創立70周年を終えて今までの保育園の歴史にふさわしい思い出に残る最後の一年にしたかったのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為にあらゆる行事が中止となり、また進級や入園した子ども達にもほとんど会えていない状況になってしまいました。

私たち保育士も寂しい思いをしています。家庭で過ごす子ども達はもっと寂しくて退屈しているのではと思っていました。そこで、外出できない子どもたちを少しでも元気づけるために辻村園長先生が発案してくださいました「ごらくぼうほいくえんチャンネル」を開始することになりました。なんと、発案後「今からすぐに録画してください」との指示。先生方にも簡単な説明だけしたものの、なんの心づもりもないまま、化粧直しもせず、YouTubeでのデビューとなりました。先生方が機転を利かし子どもたちが喜びそうな手遊びなどを考えてくださいました。そして、録画したものを園長先生に渡すと、すぐにアップ、もう配信されますよとのこと。早い。すごい。こういう時代なんだと改めて実感しました。そして、毎日朝9時から配信です。配信を見た保護者の方が

児童施設より

らも大変好評でした。多い配信のもので1000回を超えたものもあります。

ピンチの時ではありますが、新しい発見のきっかけにつながるチャンスなのかもしれません。みんなで力を合わせて新しいこども園スタートに前向きに頑張っていきたいと思います。



ごらくぼうほいくえんチャンネル

いこまこども園

新しいことにチャレンジしています。

副園長 山中 治郎

いこまこども園では、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、園児の70～60%に登園を自粛していただきました。そこで、家で過ごしている園児のために、いこまこども園でもYouTubeに「いこまこども園チャンネル」を立ち上げ、動画を配信することにしました。子どもたちが楽しめる手遊び歌やダンス、乳児のための親子ふれあい遊びなど、5月末までに6本の動画を録画編集して、保護者職員限定で配信しました。保護者の方からもとても好評で、6本合わせて2700回以上閲覧していただきました。「子どもが楽しみに見えています。」などのメールをいただいたり、「やっぱり知っている先生が写っているから、子どもが一生懸命見えています。」と直接声をかけていただいたりもしました。

6月になり、ようやく8割以上の園児が登園してくる

ようになりました。登園した園児たちは、園庭を駆け回ったり、遊具で遊んだりと元気に活動してくれています。新型コロナウイルスも心配ですが、日差しも強くなり熱中症が心配になってきました。そこで、今年は、園庭のイチョウの木にミストを設置することにしました。ホームセンターでホースとミストを購入し、イチョウの枝に沿わせて園庭で遊ぶ子どもたちの頭上から涼しい霧が降り注ぐように工夫しました。子どもたちは、「うわあ、すずしい!」「雨や。雨がふってる!」と喜んでいました。イチョウの大木の陰にもなり、とてもいい熱中症対策になりました。



仔鹿園

爽やかに

主任 稲田 桂子

5月。窓からは心地よい風とともに小鳥のさえずりが聞こえ、見渡すと柔らかな新緑が生命の健気さを感じさせてくれます。草木はいつも通り太陽の日差しを受けて花を咲かせ、虫たちはせせと活動しています。園庭からは子どもたちの弾む声が聞こえ、その姿を見守る様に青い空をこのぼりが悠然と泳いでいました。

そんな、いつもの風景を見ながら「いつも通り」のありがたさを痛感する毎日となりました。

新型コロナウイルスの影響で何かと不便だったり、不安だったりしていますが、そんな時こそ仔鹿園の強みである「たっぷりある自然」に触れて「爽やか」な気持ちになりたいものです。

4月中旬からコロナ対策も兼ねてテラスで給食を食べるクラスが増えてきました。

たっぷり自然に囲まれて、たっぷり食べて元気になろう!!



仔鹿園

あすなる

窮地の中で見えてくること

管理者 中井 加苗

今年の春は桜が咲いても、ぼかぼかのおひさまを浴びても気持ちが弾みません。あすなるも新しい子ども達と職員を迎えてのスタートがいつもと違う緊張や不安の中

で始まりました。4月末からは登園できるクラスを制限させていただいています。子ども達の元気な声が少ないのは本当にさみしい限りです。しかし、毎日変わる情報に翻弄されながらも職員みんなアイデアを出しながら前に進んでいく事が出来ている事は、少し見方を変えれば業務の見直しや改善に取り組む機会となっています。あすなるでは現在、在宅支援や電話相談が増えています。子どもやご家族に寄り添い、それでも前向きにそして楽しみながら支援の継続が出来ればと思います。

「ピンチの中にチャンスあり！」

この経験がまたきっと大きな糧になると信じています。

いっぽ

コロナに負けない!

児童発達支援管理責任者 長野 智子

4月、5月。新人の子どもは、お母さんとの離れる事や、集団の流れについて行けなくて、保育士に抱っこしてもらい泣きながらも頑張っています。そして新しい環境に子どもを預けるお母さんは、些細な事でも不安になっておられるので、保育士はいつどんな時もお話を聞ける体制を整えます。そんな毎年の、いっぽの光景は、コロナウィルスの影響で変わりました。自粛要請を2週間程行い、その間の利用はほぼ0でした。連休明けから自粛解除したものの、療育時間短縮や食べ物を提供しない、送迎はドライブスルーなどの対応を行っています。環境の変化に敏感な子どもたちは、きっといろいろ我慢しているのだらうな、もっと丁寧な保護者対応をしたいな、と思いつつ、子どもの安

全を守るため、アイデアを出し合いながら、職員のチーム力で乗り切りたいと思います。



マスクしてるよ〜!

あすかの保育園

さくらんぼ みつけた!

主任保育士 川崎 香織

「わ～!!いっぱい!」「取ってもいい?」 爽やかな5月の休み明け。登園してきた子どもたちの目に入ってきたのは、正門横に植えられた鈴なりのまっかなサクランボ。背伸びをしながら手をグーッと伸ばしたり、ジャンプしたりしながらなんとかとろうと必死です。年長さんはサクランボの木の横にある雲梯に登り、そこから手を伸ばして収穫を手伝ってくれました。大きなポウルいっぱいのサクランボをのぞき込む子どもたちは満面の笑顔!!給食のデザートに出てきて「あまーい」と声をあげながらおいしそうに食べていました。

コロナ対策で保護者の方に自粛登園にご協力いただくこととなり、登園児数が4月後半からは3～4割程度になりました。いろんな行事が縮小され、その対応におわれることが多かったため、久しぶりにゆっくりと子ども

たちとかかわったように思います。やっぱり、子どもたちの笑顔は最高です。大変な時期ではありますが、ちょっとした工夫で、できることはたくさんあります。私たちの保育をしっかりと振り返りながら、前向きに取り組んでいきたいと思います。

余談ですが。子どもたちと一緒にサクランボを収穫している保育士さんたち。

誰よりも必死で、そして太陽のような笑顔なのは…園長先生でした!!



コロナの終息を願って…

いこま乳児保育園

「ともに育つ」ということは

主任 喜多 由希子

どの施設にも何らかの係があるのですが、わが園にも自然に囲まれている関係上、外掃除係や花壇・畑を手入れする係などがあります。私は今年度、畑の係を頑張ってみようと思い、仲間に入れて頂きました。正直のところ、栽培に関しては知識も薄く、あまり甘くないイチゴを数粒実らせたことしかありませんでした。

4月に入り登園自粛のご協力もあり、子どもたちも少なくなり、畑に力を入れるには絶好の機会となりました。家で黙々と分からずにするのとは違って、7人で汗をかきながら、また笑い合いながら作業することがこれ程心

地よい感覚になるのかと自分でも驚いています。古い土と新しい土と肥料を混ぜながら畝を作り、寝かせ、苗を植え、水をやり、現在すくすくと育っています。夏にはグリーンカーテンのゴーヤ、トマト、ピーマン、朝顔が上手く育ってくれるのを楽しみにしています。

畑仕事をしながら思ったことは、子どもたちを育てることにとっても似ているなということです。当然、植えるだけでは育たず、水や肥料は必須ですが、「大きくなったなあ」や「あら、元気ないな。大丈夫?」と声を掛ける大人の姿を見て子どもたちも畑を大事にしようとするのが「ともに育つ」に繋がると思い、なるべく毎日声を掛けてあげようね!と今年の畑係の目標にしました。

手や目を掛けてあげればあげる程、より良く成長してくれるのは乳児期の子どもたち。今は何もかも自粛される環境の中での生活が続いていますが、どんな状況でも子どもたちと野菜たちが遅く成長してくれるように毎日関わっていきたくと思っています。

奈良県発達障害者支援センター でいあー

新たなシステム作りを進めていくために

センター長 森山 貴司

でいあーでは、当事者やその家族、支援者の方々の支

えになるべく相談を中心に講演会、研修会等、市町村との連携を深めていくための事業、保護者を支えるメンター事業、当事者活動の支援等を行っています。今年度は市町村との連携を進めていくために巡回相談をより充実させていくと共に、福祉と教育の連携もさらに進めていきたいと思っています。また、毎年4月初めの自閉症デーに合わせて開催する発達障害への理解や支援に関する研修等は実施できませんでしたが、今後も重要であるために年度後半に開催予定です。

愛染寮

いつもと違う春

副主任保育士 白井 絵里菜

毎年、子ども達や大人にとっての春は、新しい人との出会いや慣れない環境にドキドキワクワクする季節ですが、今年は新型コロナウイルスの影響から、いつもと違うスタートを切ることになりました。長期間学校へ行かないこと、外出自粛の生活は子ども達にとってかなりのストレスのようで、当たり前前の生活がいかに大事であったかをみんなと感じたように思います。そんな中でも子ども達や大人は何か楽しいことが出来ないかなと毎日考えています。先日子ども達主催のカードゲーム大会が開かれ、子どもも大人も出場し、熱い戦いが繰り広げられました。本気

になって一緒に遊べる時間を今だからこそ改めて経験できたのかと思うと、少し気が晴れるような気がします。子ども達も大人も気持ちよく過ごせる日々が早く訪れることを願って、みんなで力を合わせていきたいと思います。



愛染寮ポケモンカードバトル大会！

いこま乳児院

乳児院でのコロナ対策

主任看護師 関口 直見

令和2年度は、2歳児4名、1歳児6名、2歳児4名、一時保護児3名、計17名でスタートしました。

緊急事態宣言前から行っていた事は、職員の検温、子どもを含めた手洗いの励行でした。H30年に院内で手洗いの取り組みをして以降、こどもも職員も正しい手洗いが出来るようになり、罹患率や受診回数を減少することが出来ています。

宣言発令後まず行ったことは、保護者との面会・外出泊の中止です。長期間会えないことを考慮し、月に1度

写真入りの手紙で様子をお伝えするようにしました。

次に、隔離が必要になった場合を想定しての大掃除、BCP（事業継続計画）の作成に取り掛かりました。乳児院は、24時間こどもの養育をする施設の為、健康児も病児も養育しなければなりません。いつも楽しく遊んでいる場所が突然隔離部屋に変更する事になります。職員には、大切な命を守るため、コロナウィルスについてや病児保育の知識が必要になります。

普段から感染症を予測し、マスクや消毒液を確保していましたが、長期戦になり、不足に悩まされることになりました。乳児院の事を思い、貴重なマスクや消毒液を寄付してくださる方もおられ、ありがたく思っております。

今のところ、こどもも職員も元気に過ごせておりますが、いつ襲ってくるかわからないウィルスに対応出来るよう、今後も出来る限りの予防対策をしていきたいと思っております。

平城児童センター

センター 新年度のとりくみ！！

センター長 徂徠 おさむ

令和二年度は、「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通年サークル活動を実施しています。

恵まれた自然環境の中で、社会体験、野外活動、田畑を利用した農作業など家庭ではなかなか体験できない活動を行っていきたくと考えています。

小学生のサークルには多くの応募がありました。引率等の関係もあり最終的に会員を抽選で三十八名にしまし

たが新型コロナ感染症の影響で辞退者があり二十四名となり、他のサークルでも同じく辞退者が増加しました。キャンプ場も同様の状況で予約が相次いでキャンセルとなりました。

自粛要請が出され、各施設が閉館されることになりましたが四月に説明会を行い五月の連休明けからは屋外活動を中心に活動グループを午前・午後の二班に分けて活動をはじめました。初回の活動は自己紹介、センター周辺散策を行い近隣の耕作者のご好意でスイトピーなどの花摘みを行いました。久しぶりの屋外での活動で楽しそうにしていました。

当分の間これまでのプログラム内容をかなり変更することが必要ですが子どもたちの意見を取入れ、工夫しながら「センターに来てよかった」と児童が実感できるような「児遊の森」を目指していきたいと考えています。

施設長就任挨拶



梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家
センター長 松岡利和

頼もしい味方になるよう

入所施設で20年余り経験してきました。在宅の利用者の方とはショートステイで関わることもありましたが、今回デイサービスに着任することで初めて本格的に受け持つこととなります。以前に「望んで施設に入所する方はいない」という言葉を聞き、強く記憶に残っています。入所施設では、「これまでの生活をどれだけ施設で再現できるか」「より専門的な介護」などがテーマでした。

住み慣れた自宅で、家族や地域の中で過ごし続けることを支えるのが在宅サービスに共通する目的です。今までとは事業所のテーマが変化しますが、これまでに培ってきた強みを活かしながら、厳格な専門性を持ちながら、明るく和やかな雰囲気的大事にしていくなぎに努めたいと思います。利用者とその家族にとって、在宅生活を支える頼もしい味方であるようにと考えますので、どうぞよろしくお願いいたします。



養護老人ホーム梅寿荘 施設長
特別養護老人ホーム梅寿荘 次長

力をいただいて

法人に勤めて23年目を迎えようとしているこの春に、長くお世話になりました梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家から特別養護老人ホーム・養護老人ホーム梅寿荘に異動することになりました。在宅分野の仕事に携わって様々な職種を経験させていただき、今また新たに入所施設という初めての分野の扉の前に立って、これからどんな出会いや出来事があるのか、楽しみと期待と緊張感でワクワクドキドキしています。異動するにあたり、これまで頂いたご縁に感謝の気持ちと、これから巡り合うご縁に力をいただいで変化を起こせることができるよう邁進してまいりますので、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



宝山寺福祉事業団 苦情等第三者委員名簿

(平成31年4月1日～令和3年3月31日)

小川 千恵里	生駒市社会福祉協議会 生駒市デイサービスセンター幸楽所長	新田 一郎	法人評議員 宝山寺事務長
谷川 義明	法人監事 前下市町副町長	宮本 和子	元いこま乳児保育園園長 元民生委員
谷口 誠	法人評議員 元メディカルセンター事務局長	宮本 しげ子	法人評議員 奈良県のちの電話協会 小さな親切役員

令和元年度 役員会報告 (令和2年1月～3月)

*第5回理事会 令和2年3月24日 春日ホテル

第1号議案
令和元年度資金収支予算について第二次補正を行う件

第2号議案
令和2年度事業計画案について承認を求める件

第3号議案
令和2年度資金収支予算について承認を求める件

第4号議案
理事長及び副理事長の職務執行状況について報告

第5号議案
施設長の選任について承認を求める件

第6号議案
仔鹿園の定員変更認可申請について

第7号議案
諸規程の改正について

*法人苦情等対策委員会
令和2年3月10日 桃李館研修室
令和元年度 各施設の苦情等について事例検討等

令和2年度

新規採用職員

辞令交付式・研修会

こども支援センターあすなる

研修委員 佐伯佐知



滝寺本堂前にて

令和2年度の春は緊張と不安の中でのスタートとなりました。

新年度から法人職員として採用される職員は、正規職員三十名、契約職員十五名です。新卒で社会人としての一歩を踏み出す職員、子育てがひと段落して再スタートする職員など、境遇や抱く思いはそれぞれですが、ご縁あって法人の仲間になられた職員の方々が、配属先施設でいきいきと活躍してくださることを期待しています。

研修会は、当初の予定から直前に内容を変更する事となりました。コロナウイルス感染予防の為、各施設のバス見学や2日間にわたって予定されていた各研修を大幅に縮小し、三月二十六日に契約職員、三月二十七日に正規職員の辞令交付式とコンプライアンス研修のみを実施しました。

「辞令交付式・訓示」

まず初めに、正式に法人職員として採用される職員一人ひとりに、辻村泰範理事長から採用辞令が手渡されました。名前を呼ばれ緊張した面持ちで辞令を受け取り、背筋を伸ばす姿に新たな気持ちで頑張ろうという思いが伝わりました。

続いて辻村理事長から訓示がありました。

法人の歴史を知る中で、奈良の有名な西大寺を再興した興正菩薩「叡尊」さんの思いを引き継ぐ宝山寺や元興寺などのお寺が行った福祉の原点となる行いにつ

いてなど、奈良の歴史が身近に感じられるお話しに引き込まれました。

法人理念である「志存興法念在利生」にもその社会福祉の礎となる、人々を助け正しい生活へ導いていきましようという思いが込められていることを教えていただきました。

また、法人職員として求められる姿、期待することについてもお話しされました。

「コンプライアンス」

総合施設やすらぎの杜延寿の井上太施設長からコンプライアンス（法令順守）についての講義がありました。職員として働く上でのルールや倫理について事例を交えたわかりやすいお話でした。何気なく行う自分の言動が相手を傷つけたり不快な思いをさせるといったことを理解することが、対人援助の仕事をする中で大切であること。また、規則を守ることは、我々職員が社会的な責任を果たす上で大切ですが、ルールで罰則があるから守るといったことを越えて、自らを律し、自分の信念として守ることが目指すべき姿であるということでした。

今回の研修会は短時間ではありましたが、今後も法人内研修を受講していただき、その学びを現場での自身の業務に活かしていただきたいと思います。

新任職員からの一言



いこま乳児院

保育士 山本 恵海

保育士としての第一歩を歩み始めて：

この度、いこま乳児院に配属となりました、山本恵海と申します。小さい頃からの夢であった保育士として働くことができ、とても嬉しく思っております。いこま乳児院での毎日は、まだまだ自分の課題がたくさんありますが、親切・丁寧に教えて下さる先輩方と可愛い子どもたちに囲まれながら、新しい発見と学びでいっぱい充実した日々を過ごしています。

私は大学の講義で乳児院について学んでから、子どもたちの生活を支える家庭的な養育に携わりたいと思うようになりました。昼夜を分かたず生活を共にする乳児院では、子どもたちの成長をより身近で見守ることが出来ます。子どもたちの“あーちゃん”として、たくさんさんの愛情を注ぎ、感動や驚きなど様々な感情や思い出を共有していきたいと思っております。

そして、新人という貴重な一年を有意義なものにするために、先輩方の背中を追いかけどんなことにも挑戦し、子どもたちと一緒に成長していく保育士になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願致します。



あすかの保育園

保育士 竹田 萌華

私の夢

わたしが将来保育士になりたいと思ったのは小学校4年生の時からです。

そして、夢を叶える事ができ、保育士として働き始めてからはや1ヶ月が経ちました。初めの頃は1日の流れや、子どもたちへの関わりで精一杯で、正直なところ、全く自分の気持ちに余裕がありませんでした。しかし、少しずつ慣れてきた今、毎日がとても充実して楽しく過ごせています。

しかし、楽しい事ばかりではなく、子どもへの関わりで上手くいかないことや、大変なこともあります。でも、楽しいことも大変なこと全部含め、保育士という仕事がとてもやりがいがあると、改めて感じるようになりました。

さらに、日々子どもたちの成長を見ることが出来、私自身も保育士として、一緒に成長していきたいと思っております。

そして、今の私の夢は子どもたちが大きくなってからも、クラスの先生が私でよかったと思ってくれるようになる事です。今はまだまだ経験も浅く未熟ではありますが、先輩の先生方に様々なことを教わりながら日々努力していきたいと思っております。



梅寿荘

伊藤 礼華

十人十色の介護職員

私が梅寿荘で勤務して約2か月経ちました。今はまだ先輩方について仕事をすることもありますが、職員によって介助や利用者さんへの声掛けなどが異なり、その中でも自分も身につけたいと感じたスキルは吸収していきたいと思っております。施設には、沢山の利用者さんがいて、それぞれの介護度や残存能力を理解しその人にあった介護が出来るようになりたいです。まずは、教わったことをきちんと行い、経験を積んで徐々に自分に合うやり方や個性を生かした介護職員になりたいと思っております。最初は介助をするとき不安や怖さもありましたが、今では、自分でできることが増えてくると、とても嬉しいです。職場の先輩方から優しくそして分かりやすくご指導して頂いています。慣れない土地ということもあり、はじめは、とても緊張しましたが先輩方のお陰ですぐに緊張もほぐれました。これからも日々頑張ります。よろしくお願致します。

人事

令和2年度 新採用正規職員

愛染寮

丹下隼斗 児童指導員

いこま乳児院

通山夢未 保育士
山本恵海 保育士
武綾子 看護師

いこま乳児保育園

田中佳津子 保育士

いこまこども園

山中治郎 副園長
植田登世子 保育教諭
中村朱里 保育教諭

あすかの保育園

高貝紀美子 保育士
竹田萌華 保育士

極楽坊保育園

山本利沙 保育士

あすなる

辻本雅子 保育士
中谷幸世 保育士
豊川麻里子 保育士

仔鹿園

宇野香子 保育士
瀨崎留美 保育士
三浦ひとみ 保育士

でいあー

村上雛子 相談員

梅寿荘

伊藤礼華 介護職員
上杉一葉 介護職員

あくなみ苑

畷田孝平 介護職員
原田香 介護職員
菊本由香 看護師
田中豊子 看護師
井上悟 介護職員

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

前川志乃 介護支援専門員

延寿

宮澤靖幸 介護職員
清見富美栄 介護職員
永田可緒里 介護職員

令和2年度異動職員

梅寿荘デイセンター ↓ 養護老人ホーム梅寿荘
デイセンター憩の家 施設長
森本公子 施設長

養護老人ホーム梅寿荘 ↓ デイセンター憩の家
松岡利和 施設長

愛染寮 ↓ 仔鹿園

佐藤知子 相談員

いこま乳児保育園 ↓ いこまこども園
田村佳奈子 保育教諭

いこま乳児保育園 ↓ あすかの保育園
福本彩乃 保育士

いこまこども園 ↓ いこま乳児保育園
日野侑紀 保育士

あすかの保育園 ↓ いこま乳児保育園
島川望 保育士

仔鹿園 ↓ あすなる

石川千裕 保育士

仔鹿園 ↓ 極楽坊保育園

伊佐千代子 保育士

延寿 ↓ デイセンター寿楽

上平昇平 介護職員

あくなみ苑 ↓ 延寿

辻野勝久 介護職員

はあとぼーと梅寿荘 ↓ 梅寿荘

田中美和 介護職員

令和元年度退職者

いこまこども園

西浦正翁 副園長
福井彩菜 保育教諭
植田ココロ 保育教諭

いこま乳児保育園

田中結香 保育士
上野明日美 保育士

あすかの保育園

喜夕田遥香 保育士

愛染寮

林田知子 保育士

いこま乳児院

星川望美 調理師

こども支援センターあすなる

井元絵里 保育士
松井公子 相談支援専門員
梅津幸生 児童指導員

仔鹿園

池縁果加 保育士

北浦楓月

保育士

でいあー

草間理恵子 相談員
長尾知草 相談員

極楽坊保育園

中島美香 保育士
盛谷礼子 保育士
加藤みなみ 保育士

特別養護老人ホーム延寿

中島絵里 介護職員
宮永文代 介護職員

あくなみ苑

堤京子 看護師
野中英子 看護師

特別養護老人ホーム梅寿荘

今井康順 主任生活相談員
今倉澄子 主任看護師

松村千鶴 看護師
宮城秀伯 看護師
高樋慎太郎 看護師
鎌倉愛実 看護師

デイセンター寿楽

前山照司 介護職員
谷口直子 介護職員

梅寿荘デイセンター

鹿谷和弘 介護職員
大石幸子 生活相談員



法人単位資金収支計算書
(自)平成31年 4月 1日(至)令和 2年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,704,367,000	1,713,734,218	△ 9,367,218	
	老人福祉事業収入	135,126,000	134,113,147	1,012,853	
	児童福祉事業収入	398,679,000	411,050,617	△ 12,371,617	
	保育事業収入	812,865,000	831,232,503	△ 18,367,503	
	障害福祉サービス等事業収入	470,250,000	473,972,922	△ 3,722,922	
	ヘルパー養成事業収入	150,000	150,000	0	
	借入金利息補助金収入	335,000	335,727	△ 727	
	経常経費寄附金収入	16,097,000	16,440,575	△ 343,575	
	受取利息配当金収入	1,678,000	2,159,253	△ 481,253	
	その他の収入	35,070,000	35,042,491	27,509	
	事業活動収入計(1)	3,574,617,000	3,618,231,453	△ 43,614,453	
	支出				
人件費支出	2,533,851,000	2,512,259,179	21,591,821		
事業費支出	520,838,000	499,978,501	20,859,499		
事務費支出	322,355,000	301,213,170	21,141,830		
支払利息支出	672,000	663,795	8,205		
その他の支出	23,351,000	22,087,625	1,263,375		
事業活動支出計(2)	3,401,067,000	3,336,202,270	64,864,730		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	173,550,000	282,029,183	△ 108,479,183		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	2,195,000	2,194,920	80	
	固定資産売却収入	40,000	35,720	4,280	
	施設整備等収入計(4)	2,235,000	2,230,640	4,360	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	31,504,000	31,500,000	4,000	
	固定資産取得支出	55,011,000	56,966,118	△ 1,955,118	
	固定資産除却・廃棄支出	300,000	296,200	3,800	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	7,116,000	6,958,212	157,788	
	施設整備等支出計(5)	93,931,000	95,720,530	△ 1,789,530	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 91,696,000	△ 93,489,890	1,793,890		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	48,388,000	38,387,550	10,000,450	
	その他の活動収入計(7)	48,388,000	38,387,550	10,000,450	
	支出				
	積立資産支出	134,658,000	187,658,000	△ 53,000,000	
その他の活動支出計(8)	134,658,000	187,658,000	△ 53,000,000		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 86,270,000	△ 149,270,450	63,000,450		
予備費支出(10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 4,416,000	39,268,843	△ 43,684,843		
前期末支払資金残高(12)	746,961,000	746,972,444	△ 11,444		
当期末支払資金残高(11)+(12)	742,545,000	786,241,287	△ 43,696,287		

法人単位事業活動計算書
(自)平成31年 4月 1日(至)令和 2年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収入			
	介護保険事業収益	1,713,734,218	1,631,158,815	82,575,403
	老人福祉事業収益	117,161,297	116,809,006	352,291
	児童福祉事業収益	411,050,617	401,783,451	9,267,166
	保育事業収益	831,232,503	756,672,330	74,560,173
	障害福祉サービス等事業収益	473,972,922	467,637,444	6,335,478
	その他事業収益	0	5,447,233	△ 5,447,233
	ヘルパー養成事業収益	150,000	150,000	0
	経常経費寄附金収益	16,440,575	27,747,650	△ 11,307,075
	サービス活動収益計(1)	3,563,742,132	3,407,255,929	156,486,203
	費用			
	人件費	2,511,917,179	2,444,254,367	67,662,812
	事業費	482,139,101	463,187,807	18,951,294
事務費	301,213,170	293,233,925	7,979,245	
減価償却費	179,550,018	213,577,843	△ 34,027,825	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 93,315,897	△ 116,537,073	23,221,176	
徴収不能額	0	141,000	△ 141,000	
サービス活動費用計(2)	3,381,503,571	3,297,857,869	83,645,702	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	182,238,561	109,398,060	72,840,501	
サービス活動外増減の部	収入			
	借入金利息補助金収益	335,727	639,489	△ 303,762
	受取利息配当金収益	2,159,253	2,245,235	△ 85,982
	基本財産評価益	0	1,015,000	△ 1,015,000
	投資有価証券評価益	0	15,975,308	△ 15,975,308
	その他のサービス活動外収益	35,042,491	30,278,991	4,763,500
	サービス活動外収益計(4)	37,537,471	50,154,023	△ 12,616,552
	費用			
	支払利息	663,795	1,089,165	△ 425,370
	基本財産評価損	160,000	0	160,000
投資有価証券評価損	5,877,874	5,877,874	0	
その他のサービス活動外費用	22,087,625	18,771,730	3,315,895	
サービス活動外費用計(5)	28,789,294	19,860,895	8,928,399	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	8,748,177	30,293,128	△ 21,544,951	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	190,986,738	139,691,188	51,295,550	
特別増減の部	収入			
	施設整備等補助金収益	2,194,920	28,042,400	△ 25,847,480
	固定資産売却益	35,719	379,999	△ 344,280
	特別収益計(8)	2,230,639	28,422,399	△ 26,191,760
	費用			
	固定資産売却損・処分損	1,159,493	159,721	999,772
国庫補助金等特別積立金積立額	2,194,920	28,042,400	△ 25,847,480	
特別費用計(9)	3,354,413	28,202,121	△ 24,847,708	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 1,123,774	220,278	△ 1,344,052	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	189,862,964	139,911,466	49,951,498	
繰越活動増減差額(12)	1,200,119,940	1,124,608,474	75,511,466	
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,389,982,904	1,264,519,940	125,462,964	
基本金取崩額(14)	0	0	0	
その他の積立金取崩額(15)	12,500,000	71,500,000	△ 59,000,000	
その他の積立金積立額(16)	162,658,000	135,900,000	26,758,000	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,239,824,904	1,200,119,940	39,704,964	

法人単位貸借対照表
令和 2年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	956,779,777	990,597,664	△ 33,817,887	流動負債	298,118,726	387,677,772	△ 89,559,046
現金預金	536,204,398	564,210,474	△ 28,006,076	事業未払金	132,132,605	144,687,083	△ 12,554,478
事業未収金	382,968,804	358,565,277	24,403,527	その他の未払金	0	52,705,080	△ 52,705,080
未収金	8,694	2,640	6,054	1年以内返済予定設備資金借入金	15,000,000	31,500,000	△ 16,500,000
未収補助金	35,025,149	65,893,612	△ 30,868,463	1年以内返済予定リース債務	6,853,236	6,483,552	369,684
貯蔵品	28,000	43,000	△ 15,000	預り金	256,497	4,573,665	△ 4,317,168
立替金	732,037	308,662	423,375	職員預り金	38,149,388	41,659,392	△ 3,510,004
前払金	203,938	754,368	△ 550,430	賞与引当金	105,727,000	106,069,000	△ 342,000
前払費用	1,608,757	819,631	789,126				
固定資産	5,342,044,311	5,316,563,009	25,481,302	固定負債	171,655,854	189,175,380	△ 17,519,526
基本財産	3,004,961,252	3,123,871,114	△ 118,909,862	設備資金借入金	30,000,000	45,000,000	△ 15,000,000
土地	323,061,540	323,061,540	0	リース債務	19,387,404	21,019,380	△ 1,631,976
建物	2,676,899,712	2,795,649,574	△ 118,749,862	長期預り金	122,268,450	123,156,000	△ 887,550
投資有価証券	5,000,000	5,160,000	△ 160,000	負債の部合計	469,774,580	576,853,152	△ 107,078,572
その他の固定資産	2,337,083,059	2,192,691,895	144,391,164	純資産の部			
土地	4,433,872	4,433,872	0	基本金	778,885,360	778,885,360	0
建物	8,304,367	9,305,637	△ 1,001,270	国庫補助金等特別積立金	1,868,874,038	1,959,995,015	△ 91,120,977
構築物	46,133,247	48,434,207	△ 2,300,960	その他の積立金	1,941,465,206	1,791,307,206	150,158,000
機械及び装置	272,408	304,191	△ 31,783	人件費積立金	189,730,000	164,750,000	24,980,000
車輛運搬具	8,660,980	9,474,189	△ 813,209	施設整備等積立金	1,321,010,000	1,229,280,000	91,730,000
器具及び備品	77,035,169	71,427,143	5,608,026	ひめゆり基金運営積立金	20,728,000	19,080,000	1,648,000
有形リース資産	22,226,797	28,153,080	△ 5,926,283	社会福祉事業等運営積立金	256,700,000	226,700,000	30,000,000
ソフトウェア	3,684,160	3,441,353	242,807	公益事業等運営積立金	115,415,000	113,615,000	1,800,000
無形リース資産	5,221,260	5,221,260	0	福祉基金積立金	37,882,206	37,882,206	0
投資有価証券	97,087,143	102,965,017	△ 5,877,874	次期繰越活動増減差額	1,239,824,904	1,200,119,940	39,704,964
長期預り金積立資産	122,268,450	123,156,000	△ 887,550	(うち当期活動増減差額)	189,862,964	139,911,466	49,951,498
人件費積立資産	189,730,000	164,750,000	24,980,000				
施設整備等積立資産	1,321,010,000	1,229,280,000	91,730,000				
ひめゆり基金運営積立資産	20,728,000	19,080,000	1,648,000				
社会福祉事業等運営積立資産	256,700,000	226,700,000	30,000,000				
公益事業等運営積立資産	115,415,000	113,615,000	1,800,000				
福祉基金積立資産	37,882,206	37,882,206	0				
差入保証金	290,000	290,000	0				
資産の部合計	6,298,824,088	6,307,160,673	△ 8,336,585	純資産の部合計	5,829,049,508	5,730,307,521	98,741,987
				負債及び純資産の部合計	6,298,824,088	6,307,160,673	△ 8,336,585

編 集 後 記

埼玉に住む娘から、「コロナの影響で子供用マスクが無くて困っている」と連絡がありました。職場でそんな話をしたところ、同僚達が手作りマスクを作ってくれました。何年かぶりにミシンを取り出し悪戦苦闘しながら作ってくれたそうです。感謝！感謝！です。娘も出来栄えのクオリティーの高さに喜んでいました。新しい生活様式に変えて行こうと言われていますが、with-youで乗り越えて行ける気持ちになりました。 さいとう

